

記念講演 大賞

国連貿易開発会議（UNCTAD）事務局長 スパチャイ・パニチャパック 氏

アジアコスモポリタン賞受賞は、私の人生における最も幸福な時間であり、大変な喜びでもあります。

奈良は、古くから日本の仏教の中心地でした。奈良県の活動を通じ、私はすべての事柄に意味があり、人生に起こる出来事は単にランダムな要素ではなく永続性があるという仏教の教えを学びました。

ERIAは、東アジア諸国の経済統合を促し、グローバルに発展させました。人々のつながり、生産チェーンのみならず価値の連鎖、バリューチェーンが重要です。

数年前、ダボス会議でピッスワン事務総長がASEANの重要性を説き、国や地域の枠を越えて、われわれは一体となって問題に立ち向かわなければならないといった発言をなさったことはとても印象に残りました。

私と同じ受賞者の皆さま方は、各分野で活躍され、信頼の醸成に貢献されました。

私は、オランダでヤン・ティンバーゲン先生（第1回ノーベル経済学賞受賞者）の勧めに従い、人的資源開発について研究しました。のちに国際機関で働くようになり、このことが非常に役立ちました。どの国においても常に人材育成の課題があります。

私がタイ中央銀行で働いていたころ、マネーゲームについての大変な批判が起こり、問題解決には、私は政治の世界で訴えるしかないと考え、のちにタイの首相になるチュワン・リークパイ氏

の党に入りました。党は私に様々な権限を与えてくれたので、私はアジアの経済危機に対し政策を打ち出すことができました。

1990年代、アジア経済は急成長し、そして崩壊して経済危機に陥りました。人々は問題を解決するための判断力を失っていたのです。常に疑問を持ち、自問自答し、周囲に発信していかなければいけないというヤン・ティンバーゲン先生の教えを私はいつも思い出します。

私は、ASEANにおけるバンクアクセプトランス方式の創設を試み、チェンマイ・イニシアティブ等、様々な国際問題の解決に取り組みました。私たちは、自分たちの将来に何が必要か考える必要があります。

私が、世界中の多くの方からの支援を受けて入ったWTOで、貿易は世界経済発展のための手段であり目的ではないことを主張し続けたことで、「発展」という言葉がWTO憲章の中に入られました。常に発展ということをお忘れはいけません。

UNCTADで仕事ができることも私は大変光栄に思います。

最後に、アジアの価値観を世界に広める皆さま方の活動に大変敬意を表します。あらゆる価値観にはバランスが必要です。すべての人がバランスのある価値観を常に意識していただければと思います。私は国際機関で働くものとして、これからもできる限り支援していく所存です。

